

柏の葉エコクラブ

エコでつながるコミュニティ、環境都市づくりを住民が牽引



各家庭で消費されているエネルギーを計測し、省エネできた分だけポイントがもらえる「柏の葉エコクラブ」。柏の葉オリジナルの電力モニター装置を設置してエコ活動に取り組むメンバーは、すでに90世帯にも。ひとりで我慢や無理をするのではなく、住民同士が集まってエコアイデアを出し合い、仲間をつくりながら、持続可能な環境都市づくりを進める、柏の葉独自のエコ活動となっています。

CO₂削減量を家庭で見える化

自分たちの街に「あったらいいな」と思う、楽しみの場やサービスを、市民が一緒になって創りあげる「まちのクラブ活動」。家でも会社でも学校でもない、もうひとつのコミュニティづくりとして、柏の葉地域で展開されています。

その活動のひとつである「柏の葉エコクラブ」には、環境、省エネ・節約、口ハスなどに関心のある市民、90世帯ほどが参加しています。メンバーは、各家庭で消費される電気やガスなどのエネルギー消費量を計測し、二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすための取り組みをしています。

次世代環境都市づくりを目指して柏の葉地区で都市開発を進めている三井不動産グループも、当クラブの活動に協力し、電力使用量とCO₂排出量を測定する装置「エコリンコ」を新たに開発。メンバーに無償で提供することで、全国的にも例のない「CO₂削減見える化プロジェクト」となっています。

節約とおしゃべりでエコ推進

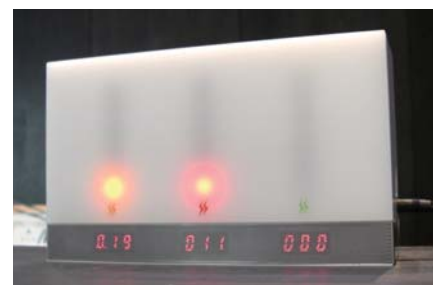
家庭から出るCO₂の削減量に応じて、買い物などで利用できるエコ・アクションポイントがもらえることに魅力を感じ入会したというのは、柏の葉キャンパス駅前のマンションに住む瀬川未来さん(32)。「工夫次第で光熱費も減らせ、ポイントも貯まるので、楽しくやる気が出ます。自然と省エネ意識が高くなりました」というとおり、瀬川さんの家庭では、電気代がエコ活動前と比べて月間2,000円以上も削減できたとか。

地域にエコ友達ができるのもクラブの大きな魅力。週に1回程度メンバーが集まる勉強会では、それぞれが持ちよった自家製パンケーキやリメイク・エコバッグなどがならび、さながらお茶会の雰囲気。

「エコ活動だって、楽しくなければ続きません。エコについて気軽に語り合えるコミュニティをつくるのが大切だと考えました」と、エコクラブの部長を務める國田かおるさん(29)はいます。



家中の電球を10個以上も外したという瀬川さん。「これでも明るさは十分。光熱費は大幅に削減できた」



省エネモニター装置「エコリンコ」は、家全体の電力消費量(左ランプと数字)のほか、個別の家電製品の電力消費も計測することができる(中央と右)。データはインターネット上に蓄積されるので、詳細な経過グラフなども確認できる。

柏の葉エコクラブ

仲間が集い・つながり・続ける

単なるエコ勉強会ではなく、エコを媒介とした友達づくりと自己実現の場が、柏の葉エコクラブ。交流を通じて気づきをもたらしてくれる場でもあります。

メンバーの瀬川さんは、「クラブ活動に参加することで、家庭にこもっていた毎日から、外に出て積極的に知り合いを増やすライフスタイルに変わりました。多様な人との交流ができるのが楽しい」と。さらに、「今まで地球温暖化やエネルギー問題の話をテレビで見ても、難しくてあまりピンとこなかった。『それで、どれだけ節約できるのか、楽しくなるのか』といった主婦目線でエコを理解できるのが、このクラブの楽しさ」とも。

柏市松葉町在住でクラブ活動に参加する板倉利恵さん(42)は、「炊飯器を使ったケーキ作り教室をクラブで開き、講師役を務めます。メンバーが好きなことや得意なことを披露し、分かり合える。楽しくて、このクラブの活動にはまっちゃいました」と笑います。

クラブ発足当初からのメンバーである金田由希さん(33)は、温暖化の影響に



X-ingでは、手作り品や押入れに眠っていたモノなどが数多く並ぶ。出品者の思い出コメントも添えられており、モノを大切に扱う気持ちが表れている。

よる野生動物の減少に心を痛めていたひとり。活動に参加し、多くのメンバーと交流することで、エコ知識が増え、これまでの生活習慣の中にある無駄に気づかされたといいます。エコ知識と同時に、素敵なエコ仲間も増えているようです。

所有から共有へ

柏の葉エコクラブは、メンバー以外にも広く市民にエコへの関心を高めてもらおうと、誰もが気軽に参加できるイベント「X-ing(クロッシング) えこものわざ交差点」を6月から約1ヵ月間、柏の葉アーバンデザインセンターで開催しています。思い出の詰まった愛着のあるモノ



スツール作りのワークショップ風景。クラブのメンバーが講師役を務めるほか、「小さなお子さん連れの方も気軽に参加してほしい」と、託児も担当。

を物々交換することで、モノに対する意識の変化を狙った取り組み。クラブのメンバーが講師になり、各人の特技を生かしたワークショップも開催します。

イベントには「自分たちの住んでいる街を快適にしたい、それがきっと笑呼(エコ)だから」というメッセージが込められています。これを機に新たにクラブ登録する人で、エコの輪はますます拡大していきそう。

柏の葉エコクラブへの参加やイベント情報の問い合わせは、
[TEL]04-7137-2221
[E-MAIL]eco@kcvn.net
[WEB サイト]http://www.kcvn.net/eco/

キーパーソン・トーク

環境対策は、街づくりとライフスタイルを一体化させて取り組むことが大切です。柏の葉キャンパス地区は、先進的な技術をたくさん取り入れた、次世代環境都市づくりが進められています。ハードの環境対策だけではなく、住民が生活の中でエコを楽しんで考え、行動できるライフスタイルづくりが必要だと考え、柏の葉エコクラブの活動を始めました。

省エネ計測装置の導入で、「CO₂削減の見える化」による住民の意識変化が現れています。ただ、このクラブの本当のポイント

は「ご近所・地域の見える化」、つまり地域コミュニティづくりです。人と人がつながり、情報やモノを共有し、活動を継続させていくことのほうが、より効果が大きく持続可能なエコ活動となるのです。食事も一人で食べるより、皆で食べるほうが、エネルギーやコストを削減できます。

この地域は、3年後に1万人が在住する街になります。エコクラブのメンバーも現在の90世帯から、近いうちに300人、さらに将来的には10,000人の規模にして、人とつながるエコの楽しさを広めていきたいです。



國田かおる
柏の葉エコクラブ部長
京都大学大学院で環境政策を学び、2004年に松下政経塾に入塾。環境カウンセラー、省エネアドバイザーの資格を有し、現在は株式会社藤崎事務所環境コンサルティングを行っている。旅行で排出したCO₂をオフセット(相殺)するための情報発信団体「Carbon to Forests」の代表も務める。

□編集後記□

エコ活動にも色々なものがありますが、我慢せず無理せず、楽しく取り組めるものだけが、続いていくのでしょうか。このニュースレターも、無理せず毎月発行を続けていきます。「エコのために、紙ではなくデータでほしい」という方は、お気軽に下記の問い合わせ先に連絡ください。(小林)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先
柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK